

Ⅱ 第一次選抜学力検査について

1 教科別の成績と考察

(1) 国語

ア 全般について

中学校における国語の学習を通して身に付けた基礎的・基本的な学力、特に自分の言葉で表現する力を中心として、総合的に評価できるよう出題した。また、出題に当たっては次の事項に留意した。

- ① 文学的な作品を取り上げ、文章の展開や表現に即して具体的な場面や人物の心情を理解し、表現する力をみる。また、説明的な作品を取り上げ、文章の論理的な展開に注意して、筆者のものの見方や考え方を的確に捉えることのできる、幅広い国語の力を多方面からみるとともに、文章の内容を整理し、まとめながら目的に応じた表現ができる力をみる。作文問題では、グラフを読み取り、的確に表現する力や、提示された内容に対する自分の考えを具体的な例、あるいはグラフの結果を活用して的確に表現する力をみる。
- ② 中学校学習指導要領「国語」に基づき、各領域と言語事項を踏まえ、幅広くバランスのとれた出題をするとともに、生徒の学習到達度を適切に評価できるよう工夫する。

問題については、今年度は、漢字についての問題、文学的文章、説明的文章、古典の文章、作文の全5題を出題した。

全体として、基礎的・基本的な知識や読解力を問う問題の正答率は高く、文法や複数箇所から抜き出した内容を指定条件に合わせてまとめて記述する問題の正答率が低かった。

イ 問題別の考察

一

読みを答える問題を5問、漢字を書く問題を5問、各2点の配点で出題した。読みを答える問題については全体的に正答率が高かった。

二

熊谷達也による「桃子」から採った。昭和四十年代の宮城県の開拓村を舞台に、家族同様に飼っていた牛の桃子を売りに出して電気洗濯機を買おうとしている父の前で、長女の朝美が児童代表で作文を読む場面を描いたものである。家族の絆や温かさが方言を交えて生き生きと描かれており、中学生にとってなじみやすい作品であったと考えられる。

問一 副詞「まったく」が修飾している言葉を選んで答える問題である。誤答としては、**ア**が多かった。

問三 傍線部の中から、形容詞をそのまま抜き出して、活用形とともに答える問題である。誤答としては、活用形を「連用形」としたものが多かった。

問五 娘の作文に感動して桃子の売却を思い留まった場面での父親の思いを、本文中の表現からまとめる問題である。指示内容を正しく捉え、適切にまとめる力をみようとしたり。減点された解答としては、指定語句を使用するのみで全体として意味の通らない文になっているものが多かった。

三

波平恵美子による「生きる力をさがす旅 子ども世界の文化人類学」から採った。異文化理解について、様々な具体例を挙げて論が展開されており、受検生にとって理解しやすい内容であったと考えられる。

問二 傍線部と同じ活用の種類の動詞を含む文を選んで答える問題である。誤答としては、アが多かった。

問五 「相手を頭から否定したり憎んだりしないでしょう」という傍線部について、相手を頭から否定したり憎んだりしないためには、どのようにすることが必要かをまとめて書く問題である。減点された解答としては、「自分の立場と、他の立場にいる人びとの主張とを常に見比べることが必要だ」についての内容が欠如しているものが多かった。

四

「常山紀談」から採った。太田左衛門大夫持資が歌道に心をひかれるようになったきっかけが描かれている。平易な表現で書かれており、受検生にとって理解しやすい内容であったと考えられる。

問三 「それより歌に志を寄せけり」という傍線部について、持資が歌道に心をひかれるようになった理由をまとめた文の二か所の空欄に字数指定した適語を、現代語で補充する問題である。誤答としては、持資と若い女の行動を取り違えているものが多かった。

五

「友達との話し合い」について調査した結果をまとめたグラフを見て、友達との話し合いの場面で、友達の前で自分の考えや意見をうまく発表することについてグラフから分かることと、友達と話し合うときに、一番大切だと思うのはどのようなことかについての自分の考えを具体的な例、あるいは体験を交えて述べさせる条件作文である。

問一 減点された解答としては、グラフの読み取りが誤っているものや、空欄の前後とつながらず、全体として意味が通らないものがあつた。表記の面では、誤字・脱字などがあつた。

問二 減点された解答としては、二段落構成になっていない解答や、一段落目に理由が述べられてしまっているものがあつた。表記の面では、誤字・脱字などがあつた。

ウ 正答率表

問題番号	二										三						
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	問一	問二		問三	問四	問五	問六
小問										A		B					
小問別正答率(%)	93	96	80	96	60	79	86	55	30	80	58	90	92	41	84	58	94

三						四				五	
問一	問二	問三		問四	問五	問一	問二	問三		問一	問二
		A	B					A	B		
83	68	88	91	93	61	93	80	58	83	57	71

(2) 数 学

ア 全般について

出題に当たっては、次の事項に留意した。

- ① 中学校における学習の全体的・総合的な達成度をみるために、数と式、図形、関数、資料の活用における基礎的・基本的な内容をバランスよく出題すること。
- ② 身近な事象をできる限り扱い、数学的な見方や考え方を活用して課題を解決できるようにするとともに、結論に至る推論の過程を的確に表現する力を評価できること。
- ③ 表や補助図を用いて題意を的確に把握できるようにするなど、設問の形式、難易度等に配慮すること。
- ④ 基礎から発展まで段階的に設問を配置し、それに従って考えを進めやすくすること。
- ⑤ 問題を解決するために、多様な考え方が大切であることを示すこと。

受検生の学力を多面的に評価するために、基礎的・基本的な知識・技能の習得とそれらを活用する力をみるよう出題した。

全体として、基本的な計算力や知識・理解をみる設問の正答率は高く、複数の数学的な見方や考え方を組み合わせて課題を解決する設問では正答率が低かった。例えば、確率と1次関数を融合した問題や、身近な事象について、方程式やグラフなどを用いて考察する問題では、正答率が低かった。

条件を的確に把握し、様々な数学的な見方や考え方を活用することにより、知識・技能を有機的に結び付けて課題を解決する力を授業の中で育成することが望まれる。

イ 問題別の考察

1

小問6問の構成で、中学校1年から3年までの学習内容から、基礎的・基本的な内容についての計算力、理解力をみる問題である。

- (3) 誤答には、計算途中のまま、 3 ± 3 としたものがあった。
- (6) 立方体状の容器を傾けた状態で水の容積を求めることにより、容器を水平にしたときの水面の高さを求める問題である。問題文から方程式を立て、解を求めるという数学的な処理についての問題であったが、無解答も多く、正答率は26%と低かった。

2

電子レンジの出力と食品Aの調理にかかる時間の反比例の関係を式で表し、それらを活用して、他の場合について応用する力をみる問題である。

- (1) 誤答には、 $500 \div 8 = 62.5$ と考えて、 $y = \frac{62.5}{x}$ としているものが多く見られた。
- (2) (1)で求めた式を使って調理にかかった時間を求める問題である。(1)で正しい式を求めた場合はほとんど正答であった。

3

確率と1次関数を融合した問題である。

- (3) 正答率は9%であった。「三角形ができない」という事象を把握するのが難しかったと思われる。

4

セロハンを折り返すことで重なった部分の面積の変化を読み取る問題について、式やグラフを使って事象を考察する力や、数学的な考え方をういて課題を解決する力をみる問題である。

(2) x の変域をそれぞれの場合に分けて、 y を x の式で表す問題である。誤答には、 y の変域を答える問題であると誤解し、「 $0 \leq y \leq 30$ 」としたものが多かった。

(4) 2通りの場合に分けて、グラフや方程式などを用いて解く問題である。無解答も多く、受検生にはやや難しかったと思われる。正答率は6%であった。

5

三角形の合同を証明することや図形の辺の長さ、面積を求めることを通して、論理的に考察し表現する力や、図形の性質を活用する力をみる問題である。

(1) 誤答には、 $BE = CD$ より $\angle BAE = \angle CAD$ としているものや、 $\angle DAE = 60^\circ$ としているものがあった。

(2) (ア) は、三平方の定理が理解できていれば、解くことができる問題である。誤答には、定規で計測したものと思われる 3.5cm が多かった。

(イ) は、(1) で証明した合同、三平方の定理等を用いることにより、 $\triangle ABE$ の面積を求める問題である。 $\triangle ADE$ が正三角形になることに気付かないと解くことができないため、無解答が多く、受検生には難しかったと思われる。正答率は3%であった。

6

1~150 までの自然数と正の平方根の整数部分との関係等について、数理的に考察する力や、数学的な見方や考え方を活用して課題を解決する力をみる問題である。

(1) 平方根の意味を理解しているかを問う問題である。「整数部分」という語句の理解が難しかったと思われる。正答率は54%であった。

(2) 文字 n を使って一般化する問題である。正答率は **ウ** 26%、**エ** 16%、**オ** 16%であった。誤答には、**ウ** n 、**エ** $(n+1)^2$ が多かった。

(3) (2) の正答率は低かったが、この問題の正答率は34%であった。具体的に書き出し、数えて答えを導き出した受検生がいたと思われる。

(4) 裏の数を全てかけ合わせたときに、素因数3の数を求める問題である。裏の数が1~12まで存在するが、その中でも $9 (= 3^2)$ に素因数3が2個存在することや、裏の数が12となるカードが何枚あるかを把握できるかがポイントであった。正答率は1%であった。

ウ 正答率表

問題番号	1						2		3		
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(1)	(2)	(1)	(2)	(3)
小問別 正答率(%)	92	82	53	51	60	26	64	42	82	75	9

4						5			6							
(1)		(2)		(3)	(4)	(1)	(2)		(1)	(2)					(3)	(4)
ア	イ	(ア)	(イ)				(ア)	(イ)		ア	イ	ウ	エ	オ		
84	66	71	52	72	6	59	36	3	54	47	22	26	16	16	34	1

(3) 英語

ア 全般について

中学校学習指導要領及び使用教科書の内容から出題し、英語教育の目指すコミュニケーション能力の育成を十分に踏まえ、中学校における学習活動の成果を総合的に評価できるように配慮した。

出題に当たっては、次の事項に留意した。

- ① 言語材料についての知識だけでなく、コミュニケーションを図るための理解や、表現の能力を中心とした英語の運用力を重点的にみること。
- ② 「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の4領域の学習活動を踏まえて出題し、言語の使用場面や言語の働きなどの内容は受検生のこれまでの学習活動に配慮した身近なものであること。
- ③ 英文を聞いたり読んだりして、話題の概要や要点を把握したり、必要な情報を正確に選択して理解したりする力をみること。
- ④ 自分の考えや気持ちが読み手に正しく伝わるように表現する力をみること。

イ 問題別の考察

1 (放送を聞いて答える問題)

4領域にわたるコミュニケーション能力の育成を主眼とする学習活動の成果をみるために、放送を聞いて答える問題を設定した。1では、身近で多様な話題についての比較的短い英文の中から、必要な情報を聞き取り選択肢から適切な正答を選ぶ力が、2では、まとまりのある英文を聞いて内容を把握し、その中から必要とされる情報をまとめる力や要点を的確に理解する力が必要である。英文の特定の一部ではなく、全体の概要を理解することによって正答を選択することができるように配慮した。1の(5)は、聞き取った情報を時系列で整理し、選択肢の英文を的確に理解する必要があったため、正答率が低かった。

2

様々な場面と話題から構成される比較的短い対話文を読み、概要や要点を的確に読み取る力をみる設問や、状況にあった内容を選択する設問などからなる問題である。「語」や「定型表現」の知識の有無だけでなく、対話の場面や状況、相手の意図を捉え適切に応答する力を測る「談話能力」が必要である。

3

様々な言語材料を用いたまとまりのある英文を読んで、その内容を理解する力をみる問題である。中学校学習指導要領の「読むことの言語活動」に記されている「物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること」を主眼に置いて文章を構成した。内容は、食料自給率について調べたことを、英語の授業の時間に発表している場面設定である。グラフや表の数字などの情報と本文を関連付けて的確に理解する力が必要である。

4

まとまりのある英文を読んで、その内容を理解する力をみる問題である。中学校学習指導要領の「多様なものの見方や考え方を理解し、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと」を主眼に置いて文章を構成した。父と娘が登山をしている場面設定である。主人公の心情を踏まえた上で、2人の考え方を適切に読み取ったり、文章全体の内容を理解したりできているかを測る問題を、限られた時間内で答える力等が必要である。7の③では、“Sunday”を“Saturday”とする誤答が目立った。

5

対話文の一文を、前後の意味が通じるように、与えられた語句を整序し答える問題である。概要の把握及び豊かなコミュニケーションを図るために欠かせない統語力が必要とされる。2では、文脈を正確に理解できず、“leave when I call you”の誤答が目立った。

6

ALT に対して、インタビューをするという場面設定で、①、②は、日本語で書かれたメモをもとに適切な英語を書き、③は、メモの空欄に入る自分の意見を適切な英語で書くという問題である。③では、おすすめの観光地について自由な発想で書いている解答が多くみられた。全体としては、基本的な語句の綴りや文法・語法的な正確性に欠ける解答もあった。

ウ 正答率表

問題番号	1									2				3		
	1					2				1	2	3		1	2	3
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)			(2)				
小問別 正答率(%)	51	70	60	82	34	63	54		68	61	72	88	50	71	62	62

4									5		6		
1	2	3	4	5		6	7		1	2	①	②	③
				(1)	(2)		(3)	(4)					
80	40	72	42	60	45	51	60	67	59	64	47	36	47

(4) 理科

ア 全般について

理科の各分野・領域から、観察、実験に基づく内容を、次のことに留意して出題した。

- ① 自然の事物・現象及び自然科学における基礎的・基本的な内容についての知識・理解
- ② 観察、実験の基本的な操作及び科学的に調べる能力と態度
- ③ 観察、実験の結果を基にした科学的な思考力
- ④ 自然の事物・現象についての科学的な見方や考え方
- ⑤ 日常生活と関連付けて科学的に考える力

大問 $\boxed{1}$ は小問集合、大問 $\boxed{2}$ から $\boxed{5}$ は理科の各領域からそれぞれ出題した。

全体的にみると、基本的な知識・技能や、実験の基本的な操作に関わる問題の正答率は高く、思考力をとれない、知識・技能を活用する問題の正答率は低い傾向がみられた。また、文章が適切に読み取れていないものや、理解していても適切に表現することができていない解答がみられた。

教科書の内容の確実な理解に加えて、説明したい内容を正しい用語や数式等を用いて、要点を分かりやすく表現する能力の育成を図るため、言語活動を充実させた指導が必要である。

イ 問題別の考察

$\boxed{1}$

中学校1年生から3年生までの各分野・領域の学習内容から、科学的な見方や考え方を総合的にみようとしました問題である。大問としての平均正答率は77%であった。

- 1 (1) 熱の伝わる現象を正しく説明した組み合わせを選んで書く問題である。受検生の誤答としては「イ」を選択したものが多くみられた。用語と現象を関連付けて理解することが必要である。

$\boxed{2}$

中学校1年生の生物領域からの出題で、タンポポの観察と光合成の実験を取り上げ、実験操作や光合成の基本事項、実験結果の科学的な見方や考え方をみようとしました問題である。大問としての平均正答率は74%であった。

- 3 タンポポの正しい分類を選んで書く問題である。受検生の誤答としては「キ」を選択したものが最も多く、次いで「イ」を選択したものが多くみられた。植物の特徴と分類を正しく理解することが必要である。

$\boxed{3}$

中学校3年生の化学領域からの出題で、塩酸と水酸化ナトリウムの中和反応の実験を取り上げ、実験操作の基本事項や技能及び化学反応についての科学的な見方や考え方をみようとしました問題である。大問としての平均正答率は59%であった。

- 2 密度 1.0g/cm^3 、濃度 2%の水酸化ナトリウム水溶液 8cm^3 に含まれる水酸化ナトリウムの質量を求める問題である。受検生の誤答としては「8g」と解答したものがみられた。問題文を正確に読み、必要とされる情報について正しく理解する力が必要である。
- 5 (2) 塩酸に加えた水酸化ナトリウムの量と、塩化物イオンの数の関係を表すグラフを選んで書く問題である。受検生の誤答としては「C」を選択したものが多くみられた。形を覚えるのではなく、縦軸と横軸が何を表しているかを理解してグラフを選ぶ必要がある。

6 完全に中和されない液体の水を蒸発させた時に残る結晶について、正しい記述を選んで書く問題である。受検生の誤答としては「ア」を選択したものが多くみられた。液体の液性を判断する力と、塩化水素の性質に関する知識が必要である。

4

中学校2年生の地学領域からの出題で、福岡市の気象観測結果を取り上げ、天気の基本事項や、科学的な見方や考え方をみようとした問題である。大問としての平均正答率は60%であった。

5 温暖前線の断面の模式図を選んで書く問題である。教科書の図を覚えるだけではなく、寒気と暖気の動きを理解することが必要である。

7 高気圧での風の吹き方の模式図を選んで書く問題である。受検生の誤答としては「ウ」と「エ」が多く、その選択率はほぼ同じであった。高気圧から風が吹くことと、風の動きを理解することが必要である。

5

中学校1年生の物理領域からの出題で、水中の物体をばねでつるす実験を取り上げ、実験操作の基本事項や物体にはたらく力についての科学的な見方や考え方、知識・理解を活用する力をみようとした問題である。大問としての平均正答率は36%であった。

2 物体の密度を求める問題である。受検生の誤答としては「7.5g/cm³」がみられた。物体の質量120gを、体積80cm³ではなく、底面積16cm²で割ったと考えられる。密度を正しく理解し、計算する力が必要である。

3 物体にはたらく水圧の向きと大きさを示した図について、正しいものを選んで書く問題である。受検生の誤答としては「エ」を選択したものが最も多く、次いで「ウ」を選択したものが多くみられた。水圧について正しく理解するとともに、図を比較して考える必要がある。

6(2) 浮力の大きさからばねののびを求める問題である。正答率は理科の問題の中で最も低かった。実験結果から必要とされる情報を読み取り、立方体の体積の求め方や、動滑車で必要とされる力などを理解した上で、整理して考える力が必要である。

ウ 正答率表

問題番号	1								2								3			
	1		2		3		4		1	2	3	4	5		6			1	2	3
小問	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)					(1)	(2)	(1)	(2)	(1)			
小問別 正答率(%)	60	93	84	70	88	85	56	83	86	76	32	90	89	86	78	78	88	87	41	65

3						4							5						
4			5		6	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	
(1)	(2)	(3)	(1)	(2)														(1)	(2)
62	58	84	64	45	44	78	62	68	61	44	65	49	85	34	53	23	78	10	4

(5) 社会

ア 全般について

本年度も中学校社会の3分野からほぼ均等に出題し、中学校で学習する基礎的・基本的な内容に関する知識・理解とともに、資料活用能力や考察力、表現力をみようとした。大問数は3題とし、短文で答える記述式問題は、歴史的分野、地理的分野、公民的分野ともに各1問の計3問とした。全体の問題数は38問とした。地図やグラフなど、社会科学習の基本となる資料を活用して答える問題や、考察した結果を記述する問題など、本年度も学習指導要領に基づいて中学校で進められている学習を意識して出題した。また、知識・理解に係る問題についても、単に用語を答えさせるのではなく、複数の知識を関連付けて事象の特徴や因果関係を理解しているかを問う出題を多くした。

分野別の正答率は、歴史的分野53%、地理的分野72%、公民的分野64%であった。正答率が低かった問題は、歴史的分野では、地租改正の内容について資料を参考に与えられた語句を使用して論述をする問題と下関条約締結後(1895年)から日露戦争開戦(1904年)までの間に発生した義和団事件、日英同盟締結、遼東半島返還を並び替える問題で、ともに28%であった。地理的分野では、東京とニューヨークの航空機の離陸時刻と着陸時刻から輸送にかかる時間を求める問題で正答率が55%であった。公民的分野では、老齢年金の給付が社会保障制度の四つの柱のいずれに該当するかを選択させる問題で、正答率が45%であった。

イ 問題別の考察

1

歴史的分野からの出題で、ある生徒が歴史の授業で学習した内容について、興味をもった貨幣を時代区分ごとに取り上げ、社会や文化の変遷について作成したまとめを題材にして、我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色についての基礎的・基本的な内容を問うとともに、それぞれの歴史的事象を、相互に関連付けて理解しているかどうかをみようとした。

6 文化の名称を問う問題で、江戸時代における都市の発展と町人文化の隆盛という特色を理解できているかをみようとした。正答率は45%であり、「化政」、「天平」、「安土桃山」の誤答が多かった。

8(1) 近代国家の学校制度を規定した制度名を問う問題で、学制について正しく理解をしているかをみようとした。誤答としては「大日本帝国憲法」が最も多く、次いで「教育勅語」「教育基本法」が多かった。

8(2) 地租改正について、「基準にして」、「土地の所有者」を用いて税のかけ方と納め方の変化を説明する問題で、税の基準が収穫高から地価へ、納税者が耕作者から土地所有者へ変化したことを理解しているかをみようとした。税の基準についての部分での誤答が目立ち、「土地面積」や「石高」、「租」、「地租」を基準にした誤答が多かった。一方で納税者及び納税の方法についての誤答は少なかった。

9(1) 日清戦争開戦から韓国併合までの年表の中で、義和団の鎮圧、日英同盟、遼東半島返還を並び替える問題で、下関条約締結から日露戦争開戦までの期間における日本の諸外国との関連や日本が列強と比肩しうる地位を獲得するに至る過程を正しく理解しているかをみようとした。誤答としては「ウ→イ→ア」が多かった。

2

地理的分野からの出題で、あるクラスで給食の献立から使用されている食材について班ごとにその特徴について作成したまとめを題材として、地理的分野の基礎的・基本的な内容を確認するとともに、複数の資料を関連付けて読み取る力や、地理的な見方や考え方が身に付いているかをみようとした。

- 4 アメリカ合衆国でみられる企業的農業についての説明を記述する問題で、資料と写真から説明することができるかをみようとした。正答率は高く76%であったが、資料から「農地が広い」ことが読み取れていない解答もみられた。
- 5 オーストラリアの貿易相手国の変化を示したグラフと同国の輸出品の変化を示したグラフから、2016年時点のグラフの組み合わせを選択する問題で、地理的なつながりと産業の変化を正しく理解しているかをみようとした。誤答としては「エ」とするものが多かった。
- 9 (1) 地形図の読図を行い地形の名称を問う問題で、地形図から地形を判断することができるかの技能をみようとした。正答率は64%であり、誤答としては「三角州」が多かった。
- 10 東京とニューヨーク間の輸送にかかる時間を計算する問題で、航空機の発着時刻を手がかりに時差の計算が正しくできるかをみようとした。誤答としては「11時間」が最も多く、「9時間」、「7時間」が続いた。

3

公民的分野からの出題で、あるクラスで「誰もが幸せに暮らせる社会をつくろう」をテーマに班ごとに行った探究活動を題材にして、社会的事象についての基礎的・基本的な内容の定着度や、複数の資料を関連付けて読み取る力や適切に表現する力が身に付いているかをみようとした。

- 3 非営利組織の略称を説明文の空欄に補充する問題で、非営利組織の目的と性質について正しく理解しているかをみようとした。誤答としては、「NGO」としたものが多かった。
- 5 国際経済の動向と在留外国人の増加割合について、グラフを参考に正しい組み合わせを選択する問題で、国際経済の変化についての理解と増加割合の計算ができるかをみようとした。誤答としては「ウ」が最も多かった。
- 6 老齢年金が社会保障制度の四つの柱のいずれに該当するかを選択する問題で、社会保障制度の内容について理解ができているかをみようとした。誤答としては「ウ」としたものが多かった。
- 11 図から、首長と内閣総理大臣の選出方法の違いを説明する問題で、内閣総理大臣は有権者から選出された国会において選出されることを理解しているかをみようとした。国会が有権者から選ばれている旨の記述がない解答が見られた。

ウ 正答率表

問題番号	1												2					
	1	2	3	4	5	6	7	8		9		10		1	2	3	4	5
小問別正答率(%)	65	64	73	57	63	45	64	58	28	28	55	64	68	83	88	82	76	60

2							3													
6	7	8		9		10	1	2	3	4	5	6	7	8	9		10		11	
		(1)	(2)	(1)	(2)										(1)	(2)	(1)	(2)		
81	75	65	87	64	86	55	78	74	52	74	55	45	83	62	72	57	68	81	58	

2 出題の意図

国 語

国語を適切に表現し正確に理解する能力をみるために、各領域と言語事項（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）から、基礎的・基本的な内容に関して出題した。

今年度は、**二**及び**三**で、文章の展開に即して内容をとらえ、目的に応じた的確にまとめる力をみようとしました。**四**では、注釈に基づいて古文を的確に読み取る基礎的な力をみようとしました。また、**五**では、グラフを提示し、グラフから分かることと、グラフに関連した内容についての自分の考えを的確に表現する力をみようとしました。

数 学

数量や図形などに関する基礎的・基本的な知識・理解、数学的な技能及び数学的な見方や考え方をみるために、「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」の各領域から出題した。

今年度は、**4**で、セロハンが重なった部分の面積について、表やグラフを利用して問題を解決する力をみようとしました。**5**では、二つの線分の長さが等しいことを証明し、図形の性質を用いて考察する力をみようとしました。また、**6**では、数の性質を通して、数学的な見方や考え方を活用し課題を探究する力をみようとしました。

英 語

英語によるコミュニケーションの基礎的・基本的な能力をみるために、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の各学習活動を踏まえて出題した。

今年度は、**2**で、具体的な言語の使用場面に合った適切な表現で応答する力や情報を正確に読み取る力を、**4**では、まとまりのある英文を読んで、大まかな流れをつかみながら、登場人物の考えなどを読み取る力をみようとしました。また、**6**では、インタビューをする場面において、自分の考えを聞き手に正しく伝わるように表現する力をみようとしました。

理 科

自然の事物・現象についての観察や実験を通して、基礎的・基本的な内容についての理解力、科学的な思考力及び表現力をみるために、理科の各分野・領域から出題した。

今年度は、**2**で、タンポポの観察と光合成に関する実験を取り上げ、実験操作についての基本事項や、観察・実験において科学的な見方や考え方が身に付いているかをみようとしました。また、**5**では、水中の物体にはたらく力を調べる実験を取り上げ、基礎的・基本的な内容についての理解力や、グラフのかき方を通して表現する力が身に付いているかをみようとしました。

社 会

社会科の基礎的・基本的な内容についての理解力、また、地図やグラフ、図表などの資料を活用する技能及び思考力や表現力などを総合的にみるために、歴史、地理、公民の各分野から出題した。

今年度は、**1**の歴史的分野で、各時代の特色について、基礎的・基本的な内容を理解しているかをみようとしました。**2**の地理的分野では、複数の資料を関連付けて読み取る力や、地理的な見方や考え方が身に付いているかをみようとしました。また、**3**の公民的分野では、社会的事象についての知識や概念の理解とともに、諸資料から読み取った事柄を適切に表現する力が身に付いているかをみようとしました。